

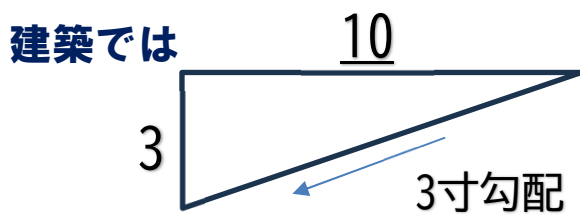
# 土木の法面勾配と建築の屋根勾配の表現の違い

水平1:垂直1

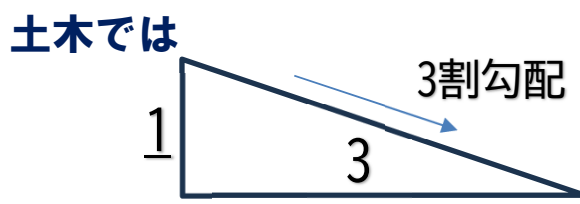
建築では10寸勾配

土木では1割勾配

同じ角度45° の勾配でも土木と建築では表現が違います

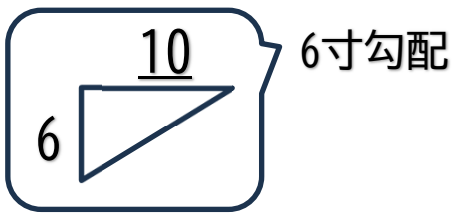


水平の長さが基準となり  
水平10に対して垂直が3の  
勾配であれば3寸(10分の3)  
と表現します



垂直の長さが基準となり  
垂直1に対して水平が3の  
勾配であれば3割(1対3)  
と表現します

- 安全衛生法(規則)では、屋根勾配が6寸を超えると屋根上ではフルハーネスの使用が義務となり。  
法面勾配が1割2分を超えると法肩に手すりが必要になります。



- ただし安衛法(則)では、何寸や何割という表現はされておらず角度で書かれているため、例えば法面を60°以下にとは何割勾配か把握しておく必要があります。

### 例

- ① 6分勾配は59°のため高さ(深さ)5mを超える掘削では法面勾配を6分よりゆるく掘削する
- ② 法面勾配が40°を超えると法肩に墜落防止の手すりが必要になるので1割2分よりゆるく掘削する

地山の種類	掘削面の高さ	掘削面の勾配	掘削面の図
岩盤又は堅い粘土からなる地山	5 m未満	90度以下	
	5 m以上	75度以下	
その他の地山	2 m未満	90度以下	
	2 m以上 5 m未満	75度以下	
	5 m以上	60度以下	